

倉松町（くらまつちょう）

新津地区の中で、ここだけが堀江藩の統治下にあった。堀江藩大沢家は、庄内（今の舘山寺町）に陣屋を構えた旗本であり、三河の吉良家などと同じように「高家（こうけ）」と呼ばれ、格式高い家柄であった。この倉松の庄屋は、俗に名主代官といわれて、領主大沢家の代官を兼ね、とくに苗字帯刀（みょうじたいとう）も許され、年貢の取り立てをしていた。その年貢米を入れる百俵倉が、村のまん中の松林に囲まれて建てられていたところから倉松と名付けられたといわれる。なお、昔の資料には、蔵松・鞍松の字も見うけられる。

堤町（つつみちょう）

昔、このあたり一帯は海であったが、天竜川による土砂の沖積（当時は、今の馬込川が天竜川の本流であった）や、土地の隆起などによって陸地となった。そのとき防波堤が築かれたことも考えられる。

また、天竜川の堤であったかも知れない。

いずれにしても、堤があったから、それが地名になったものと思われる。

田尻町（たじりちょう）

浜名平野の南端にあたり、稲作がおこなわれる田んぼの終わりという意味の「田の尻」が、地名になったといわれる。

この町の地形は、非常に複雑であるが、これは馬込川が天竜川の本流であったころ、つまり田尻湊（たじりみなと）が栄えた時代の名残（なごり）とみられている。

法枝町（のりえだちょう）

この町も複雑な地形を示しており、住民の生活が、馬込川と遠州灘とに大きなかわりをもって、今日に至ったことを物語っている。”法枝の「法」は「仏法」の意味で、仏教が栄えたところ”とみる人もいるが、はっきりしない。

卸本町（おろしほんまち）

浜松卸商センター加入の各社従業員から町名を募集して、最も多かったこの町名を採用したといわれる。昼間は2,000人近い人びとが働いて、独特な活気をみせているに反して、夜間は住む人もほとんどいないというのが、この町の大きな特徴である。

令和5年度 地域力向上事業 地域愛称マップ(新津地区)

企画・発行 / 浜松市

(浜松市 南行政センター 新津協働センター)

参考 /

新津地区 愛称標識の由来(新津地区 愛称標識設置委員会)
南区ガイドマップ(南区地域力向上事業)

御協力 / 新津地区自治会連合会

- ・新橋町東自治会
- ・新橋町西自治会
- ・小沢渡町自治会
- ・小沢渡町西自治会
- ・倉松町自治会
- ・堤町自治会
- ・米津町自治会
- ・田尻町自治会
- ・法枝町自治会
- ・卸本町自治会

デザイン・印刷 /

株式会社クリエイティブプロジェクト・ズーム